

3.11 東日本大震災より

しおかぜの震災時の状況と伝えたいこと



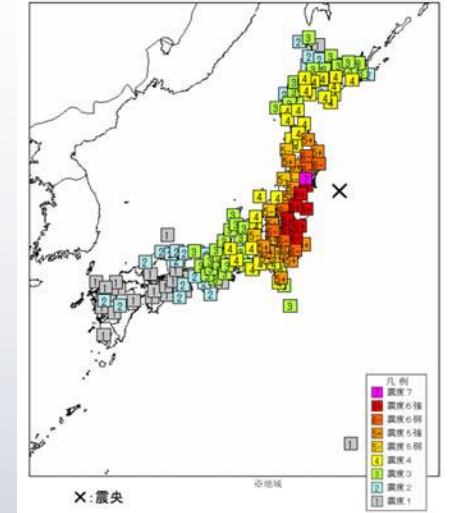
障害福祉サービス事業所しおかぜ 永井一人

目次

1. 東日本大震災の概要
2. しおかぜの避難から再開まで
3. しおかぜの再開から
4. あの時を振り返って
5. 伝えたいこと

▶ 1. 地震の概要

1. 発生日時 平成23年3月11日(金)14時46分頃
2. 震源及び規模(推定)
モーメントマグニチュードMW9.0、深さ約24km
三陸沖(牡鹿半島の東南東130km付近)
3. 余震: M7.0以上6回、M6.0以上89回、M5以上552回



▶ 2. 岩沼市の被害概要

1. 被害状況(概要)

人的被害: 死者 181名

行方不明者 1名

建物被害: 家屋被害 5428戸 (出典: 岩沼市)

2. 農地被害

耕地面積: 1870HA

津波被害農地面積: 1248HA

被害面積率: 66.7%

津波被害農業施設: 排水機場3ヶ所、農道・水路、農業用機械・施設など

(出典: 宮城県土木部資料等)

▶ 2. しおかぜの避難から再開まで Vol 1

1. 発生当時の活動場所

①しおかぜ本棟、②農園の2ヶ所において活動中

2. 直後に避難準備体制に移る

①施設内待機 ②バスに乗車（残留者確認済）

同時刻（14:49分）に津波警報発令

3. 全員数の確認、非常持出し品を整え待機

指定避難場所の様子確認を行う＝避難者で混乱

4. 代表理事も駆付け、避難を決定し、事前に取り決めていた避難場所（意思決定）市役所に移動した

5. 市役所駐車場にて待機、併せて市役所担当課に避難完了の報告を行った（15:50迄）そのまま待機



▶ 2. しおかぜの避難から再開まで Vol 2

- 津波到達予想時刻を過ぎる
利用者様より不安の声が聞かれる（鍵・電話）
特に電話は、家族と安否確認をとりたい…
- 津波の第1波到来がラジオにて流れる
- 施設に一時的に戻る選択を行う
安全上の役割（見張り、車両の向き、道路の渋滞の有無等）を職員間で打ち合わせた後、移動した

津波（第2波）の確認により急避難を行う

- 避難は完了し、その後、避難場所の変更を行った
（市民会館）、代表理事により、障がい者の事情を理解頂き、占有できる部屋が確保できた
- 続々、避難者が集まってきた。バスを使い、避難者を迎えに出るお手伝いができた（地域への支援）



▶ 2. しおかぜの避難から再開まで Vol 3

11. 市民会館にて待機態勢を維持、家庭への引渡しを深夜まで数回アタックする
12. 市民会館に続々、避難者が来る。後、1時間ほどで電源がロストする通達ができる
13. 占有スペースの使用も限界になってくる。予備灯も消えるため、トイレへの介添え等安全の確保も困難が予想されるため、代表理事と相談し、グループホームに待機場所を移すこととした

但し、避難場所を家族にどのように伝えるか？

14. 地元ラジオ局に安否・避難先の情報をメールにて発信する。約1時間30分後の24:20分頃に放送され、それを聞いた父兄2名に引渡しが行えた
15. それからは車内にて仮眠体制をとり、職員の家族安否状況の確認に交替にて向かわせた



TBC東北放送 Skip! Web Magazine

HOME 番組からのお知らせ USTREAM

3.11 みやぎホットライン

TBCラジオ 月曜20:00~20:30

番組からのお知らせ
TBCラジオ AM 1260kHz
3.11みやぎホットライン
月曜 20:00~20:30
番組へのおたより および 災害時の情報受付は
mail: saigai@1260.jp
FAX: 022-305-1088
Twitter: TBC_saigai
USTREAMでも配信します(オンエアと同時に)

番組へのお便り・情報は [こちら](#)
mail saigai@1260.jp
fax 022-305-1088

▶ 2. しおかぜの避難から再開まで Vol 4

16. 翌朝、行政より食料の配布がある（菓子パン）
17. 利用者家族の安否情報の収集に動く
18. 施設の状況確認が夕方に行えた（水が引かず、施より500m付近より侵入が出来なかった）
19. 震災当日に利用されていた方のご家族の安否が4日目（15日）に確認ができた
震災翌日より、グループホームを避難所として、被災した利用者及びご家族、職員が避難生活を余儀なくされ、しかしながら、行政からの物資、保健師の巡回等、支援を受けることができた
20. 4日目（15日）より片付け開始、翌日（16日）より3日間で重機によるガレキ撤去完了、施設内の片付けを24日まで行い、受入体制完了となる

全職員が協力し、各自よりも施設の復興を優先



▶ 2. しおかぜの避難から再開まで Vol 5

21. 緊急役員会を招集（平成23年3月20日）

- ・被害状況全般の報告
- ・施設の再開（水、電気、食事、燃料、職員の確保等）
- ・復旧及び修繕（工事発注・業者の承認）
- ・復旧に要する資金準備の計画

各家庭に通知・4月1日から再開

22. 修繕・工事が資材の入手難や高騰、公共工事優先により、実質的な工事開始期が夏（震災から半年）となる

23. 多方面より支援が寄せられた（行政・社会福祉協議会、各育成会、同業の施設・NPO団体、個人等）

24. 利用者の活動は主に片付けが中心となった
請負作業の支援（難民をたすける会やセルフ協）

25. 当初、燃料（ガソリン）の調達に困難を要した



> 3. しおかぜの再開から Vol 1

- 1. 4月1日より再開
通常 = 8:30~17:30
↓
短縮 = 9:30~16:30

9割を超える利用

- 2. 非日常的な環境を早急に
戻すことを優先した
- 3. 辺りの環境の変化に動揺
が見られたり、不安を口
にする利用者もいた
- 4. 送迎ルートを変える等の
対応により、徐々に軽減
できた
- 5. 衛生面やガレキの片付け
に特に配慮を要した

毎日新聞 2011年(平成23年)6月2日(木) 夕刊 3版 グラフ 8

eye

海沿いの雑草が伸びるなか、陸奥に向かう足取りが軽くなる日を迎えてはやまない。4月20日

海水に浸った農作物は腐敗が上がり、再び利用できるまでには2、3年かかるというが、懸命に泥の引き出しを行う。4月22日

芽を出したマリゴ、トルネード、ルピナスなど、苗の土に手を触れる。壁には花が咲き、近隣の作業員に目を奪われる。5月20日

作業を終え、支援員の工務一人さん(25)と、おひろく(21)とが笑顔で話している。11日、作業員が利用者のために、おひろくが4月22日

ここが心のよりどころ 震災被災 再開の福祉施設で

「ここが心のよりどころ」をテーマにした、震災被災者のための福祉施設。再開された施設で、利用者たちが笑顔を見せる姿が、支援員たちを勇気づけている。再開された施設で、利用者たちが笑顔を見せる姿が、支援員たちを勇気づけている。

再開後も残る課題

立された全日本福祉「日本障害フォーラム」(JDF)は、8月8日から4月15日にかけて、全国の障害者が入居した施設を、再開に向けて調査している。調査対象は、障害者福祉を主眼とした施設で、再開に向けて調査している。調査対象は、障害者福祉を主眼とした施設で、再開に向けて調査している。

> 3. しおかぜの再開から Vol 2

1. しおかぜ本体の修繕

- ・ 汚泥の除去



- ・ 消毒剤散布



- ・ 床材張付け



2. 授産施設の復旧

- ・ 土壌の入替



- ・ 肥料の混入



- ・ 整地、完了



> 4. あの時を振り返って

1. 利用者への対処・様子、家族・地域からの声

- ・避難に際し、利用者の方々は落ち着いて職員の指示を受けてくれました
- ・時間が経過とともに、利用者自身の家族安否についての“不安の声”が聞かれ始める
- ・各車両（3台）で避難したことで、複数名の職員が分乗し、利用者に寄り沿うことができた
- ・避難先を事前通告していた場所から変更、これをどのように家族に伝えるか苦慮した
- ・食料、物資も避難所の指定により、行政よりの配給も十分に受けることができた
- ・避難先を一個体で確保できたことで、利用者及び職員のストレスを軽減できたと思う
- ・施設再開（4月1日）が早く行えたことに、家族より感謝の声が多数寄せられた
- ・近隣の父兄より、食料等の持ち込みがうれしかった
- ・辺りが落ち込んでいる中、地域の方々にも前向きになってもらうことも含め、復旧にいち早く取り組んだ。これに対し地域の方々から賛辞と感謝の声をいただきました

2. 困ったこと

- ・ 物資等の配給や支援においては自治体に感謝するが、震災被害が大きいほどに行政の手当は後手になることを感じた、いかに自主再建の手段を図れるかによって、事業の継続に大きく左右されると感じた
- ・ 支援を頂いているため、無下にもできないが、様々な取材やアンケート等の申出の調整に苦慮した
- ・ ボランティアの対応も苦慮した一面があった（宿泊先未定やその方の人物像がわからない）

全職員が事業所再開に向け、頑張ってくれた！！

> 5. 伝えたいこと

- ・利用者を守る意識と同等に**自身の命を守る**ことを考えて行動すること。

特に若者の生命の尊さと各々に家族がいるということを第一に考えての行動がとれることの大切さを組織として常に意識すること。

- ・法人（組織）として、手当（災害手当等）の創設及び準備により、職員への精神的安心を図る取り組みを検討または行うこと。
- ・優先順位を決めること。（やらないこと、捨てること、後回しにすること）
- ・防災意識と訓練等の継続の重要性
- ・最低要員でできることを、訓練を通して実感しておくこと。
- ・自動参集体制や震災の大きさによる参集要員を決めておくこと、また、非常招集訓練等を定期的に実施すること。
- ・発生から避難時、被災時の状況の記録を残すこと。
- ・PCデータの持出や管理（外部依存も図ること）
- ・避難場所の取り決めと告知は行っているが、安否情報の発信方法の限定。
- ・避難の際の避難路（渋滞する箇所が数か所あった）を複数記憶しておくこと。

事業所として利用者・職員の命が守れたこと！

多くの温かい支援への感謝！

そして未来への継承！

メモ